

2025年10月19日

学校関係者評価報告書

学校法人 葛谷学園

中和医療専門学校

自己点検・自己評価実施委員が作成した「令和6年度 自己評価報告書」を基に、
2025年度の学校関係者評価を行いました。その結果を以下の通り報告します。

1. 学校関係者評価委員会

学外委員（五十音順）

- 大平 英樹 氏（おおひら鍼灸接骨院 院長）
- 深井 和教 氏（和漢薬房株式会社 代表取締役）
- 藤村 大輔 氏（ひじかた整形外科 勤務）
- 松田 吉弘 氏（愛知県柔道整復師会 総務部長）
- 吉井 圭美 氏（保護者）
- 吉崎 和樹 氏（愛知県鍼灸マッサージ師会 副会長）

学内委員

- 清水 洋二（校長）
- 二村 浩之（あはき関係科学科長）
- 太田 康晴（柔道整復科学科長）
- 戸崎 素成（附属接骨院院長）
- 加藤 俊亮（あはき関係科実技主任）
- 遠山 治孝（事務局・総務主任）
- 吉野 真二（事務局・労務主任）

2. 学校関係者評価委員会会議

第1回：2025年 7月20日 13:00～14:10

第2回：2025年10月19日 13:00～14:10

場所：本校3号館2階 会議室

3. 基準項目ごとの学校関係者評価・意見等

分類	コメント（意見・評価・回答）
基準 1	<p data-bbox="336 501 1337 607">（1）激動の時代への対応に適応しており、医療人としての考え方を教える体制が共有されている。入学生を取りこぼさない姿勢も評価できる。</p> <p data-bbox="336 712 440 748">【回答】</p> <p data-bbox="336 786 1294 891">昨年度より教育理念を「臨床現場で即戦力となる医療人の育成」から、「医療を職業とする社会人の育成」へとシフトしました。</p> <p data-bbox="336 929 1337 1106">これは、通信制高校出身者や不登校経験者など多様な背景を持つ学生が増えている現状を踏まえ、彼らが「社会で自立し、食べていけるスキル」を身につけさせることを専門学校の新たな使命と定義したためです。</p> <p data-bbox="336 1144 1337 1249">具体的には、挨拶などの基本指導に加え、今後は社会生活に必要な社会的スキルを身につけるための講座の導入も検討しています。</p>

基準
2

(1) 現場の声を聞いて運営されている。一方で、学生が利用できるパソコンが少ない点が改善の余地があると感じる。

【回答】

令和5年度より「学校運営懇談会」を年2回開催し、役員と教職員の直接対話を強化しています。

パソコンについては、現在研究用として12台を設置していますが、今後は1号館のWi-Fi環境を整備することで高速な通信環境を提供し、学生が自身の端末（タブレット等）を活用するBYOD形式を支援していくことを考えている。

基準
3
(あはき)

(1) 現場からはお灸の需要喚起の必要性を感じている。卒業生や現場の声を聞くことが重要。

【回答】

お灸の需要喚起について：業界全体でお灸が二の次になりがちな現状を打破するため、本校では新カリキュラム導入に伴い、3年生に「お灸の授業」を1コマ増設しました。

また、オープンキャンパスにおいても、従来は「鍼」の体験授業に含めていたお灸を、昨年度より「お灸」の体験授業を別枠で実施し、入学希望者への啓蒙活動を強化しています。

ここ数年で同窓会の体制を刷新し、親睦中心であった従来の新年会から、卒業生や外部講師を招いた「年2回の勉強会」へとシフトしました。これにより、現場の最新技術や意見を学校運営や学生指導にフィードバックできる体制を整えています。

※外部委員からの「教職員の努力を感じる」という評価に対して、2024年度に専任教員3名を入れ替え組織を若返らせたことで、学生とのコミュニケーションが活性化し、学生との心理的距離の縮小による相談機会の増加や教員間の情報共有と連携の活性化などにより、よりきめ細やかな指導になってきていると感じています。

<p>基準 3 (柔整)</p>	<p>(1) トレーナー活動等の現場教育が充実している。学生の学力低下に対するきめ細やかな指導を継続してほしい。</p> <p>【回答】</p> <p>2024年度は約60名の生徒トレーナーサークルに加入し、レスリング、ラグビー、アーチェリー、バスケットボールなど幅広い種目に参加しました。</p> <p>学力面では、専門的な内容のイメージが持てず意欲を失いかけている学生に対し、個別面談を通じて一つずつ課題を特定・解決する「肯定的な接触」を重視した個別指導を徹底しています。</p>
<p>基準 4</p>	<p>(1) 国家試験100%合格を目指し、学生のニーズに合った就職先の充実を図ってほしい。</p> <p>【回答】</p> <p>あん摩マッサージ指圧師は100%合格を達成しました。学習環境として、学校の開放時間を18時30分まで延長し、教員が常駐して個別質問に即応できる体制を整えています。</p> <p>就職面では、年2回の企業説明会を開催しており、卒業生ネットワークの活用により、学生1人に対し10倍以上の求人を確保しています</p>

基準
5

(1) 保護者との連携が密で安心感がある。同窓会による卒業生把握も重要になる。

【回答】

年2回ある後援会役員会や総会を通じ、保護者と密に連携しています。不登校経験を持つ学生などの場合、保護者への連絡が本人のストレスになることもあるため、原則として本人の同意を得た上で対応するよう配慮しています。

卒業生の把握については、卒業時にメールやLINEの連絡先提供を任意で依頼し、個人情報保護の観点から学校が一括して適切に管理する体制を構築しています。

(1) 教育環境は着実にレベルアップしているが、学生が書籍を閲覧しやすい工夫など、今後さらなる改善の余地があると考えます。

現在は図書貸出や書庫の開放が週に一度と限定的ですが、管理面での配慮をしつつ、学生がより主体的に多くの書籍に触れ、専門知識を深められるような運用の工夫を期待します。

【回答】

図書運用の改善について現在、図書閲覧室は平日の9時30分から18時30分まで自習の場として開放していますが、図書貸出については週1回（月曜日の14時50分～15時20分）に制限されているのが現状です。委員のご指摘を受け、貸出頻度を増やすなど運用の見直しを検討します。

学習スペースの拡充について図書室以外にも、職員室前のギャラリーや1号館の自習スペースを学生のバックアップ拠点として活用し、教員が最大限のフォローを行える環境を整えています。また、コロナ禍の際に対策として1号館2階に共用スペースであるホワイエに設置した机を再配置し、放課後に残って勉強する学生の学習環境を確保しています。

設備面の強化として校舎建設から8年が経過し、既存の防犯カメラに死角が生じている点や、夜間の立ち入り管理が不十分な点が課題として浮き彫りになっています。セキュリティー強化のため、防犯カメラの増設・再配置を検討し、学生が安心して学習に専念できる環境整備を進めています。

<p>基準 7</p>	<p>(1) 少子化による定員割れの深刻化を踏まえ、SNS 活用など幅広いアプローチが必要。</p> <p>【回答】</p> <p>校長の指示により、Instagram や TikTok で授業風景や在校生の生の声などのリアルタイムな情報発信を開始しました。特に、全国に約 35 万人いるとされる不登校経験を持つ学生が、『手に職をつけて自立し、社会で生きていく力を養うための教育拠点』としての役割を担うべく、単に国家資格の取得のみを目指すのではなく、「社会人として自立できるようになる教育」を前面に出した募集戦略を展開しています。</p>
<p>基準 8</p>	<p>(1) 学校を取り巻く環境は厳しいが、財務基盤の安定に努めてほしい。</p> <p>【回答】</p> <p>令和 6 年度決算は黒字となりました。学生数の減少が著しい柔道整復科 II 部（夜間）を令和 5 年度より募集停止にするなど、経営資源の適正配置による財務健全化を進めています。</p>
<p>基準 9</p>	<p>(1) 個人情報の管理、特に非常勤講師や卒業生情報の扱いには万全を期してほしい。</p> <p>【回答】</p> <p>校内の PC はインターネットから物理的に切り離されたクローズド環境で運用し、外部への漏洩を完全に遮断しています。卒業生名簿は事務局が厳重に一括管理しており、同窓会役員を含む学外者が直接触れられないようにしています。非常勤講師に対しても、自宅での採点時の注意喚起など管理の徹底を周知しています。</p>

(1) 地域防災訓練への参加や国際交流の機会創出など、知名度向上につながる活動を積極的に推進し、本校の存在を広く社会に知ってもらう工夫を期待する。

【回答】

地域連携の強化として、新たに稲沢市商工会へ加入しました。これにより、市が主催する各種イベントへの参加機会を増やし、地域社会との接点を大幅に強化しています。

防災活動への協力について稲沢市の総合防災訓練には関係団体を通じて協力しています。課題として市から避難所としての施設提供の打診もありましたが、災害時には教職員自身も被災者となるため管理責任を負うことが困難であるという現実的な課題を考慮し、現在は技術協力等の形態での貢献に留めています。

施設資源の有効活用（会場貸出）について営利を目的としない地域活動や卒業生向けセミナーに対し、積極的に校舎・設備を貸し出しています。

令和6年度には、私学関係の大規模なフェスティバルの会場としても本校が活用されました。

国際交流への将来展望は将来的な募集チャネル拡大や交流機会の創出を見据え、日本の国家資格が有効な国の調査や、他校における留学生受け入れ事例の研究を現在進めています